

TOYOPEARL®
トヨパールアフィニティー
クロマトグラフィー用充填剤

TOYOPEARL® AF-rProtein L-650F

取扱説明書



東ソー株式会社

ご使用前に



- この製品を使用する前に、必ずこの取扱説明書をよくお読みのうえご理解ください。
- この取扱説明書は、いつも手元においてご使用ください。
- 製品本来の使用方法及び取扱説明書で指定した使用方法を守ってください。
- この取扱説明書の安全に関する指示に対しては、指示内容を理解のうえ、必ず従ってください。
以上の指示を厳守してください。
指示に従わないと、けが及び事故のおそれがあります。

【取扱説明書について】

- 取扱説明書の内容は、製品の性能・機能の向上によって将来予告なしに変更することがあります。
- 取扱説明書の全部又は一部を無断で転載又は複製することは禁止しています。
- 取扱説明書を紛失したときは、弊社営業担当者までお問合せください。
- 取扱説明書の内容に関しては万全を期していますが、万一不審な点、誤り及び記載漏れに気づいたときは、お手数ですが巻末の連絡先までご連絡ください。

安全上のご注意

- ご使用の前に、この“安全上のご注意”をよくお読みのうえ正しくお使いください。
- この項目は、いずれも安全に関する内容ですので、必ず守ってください。
- “警告”“注意”の意味は次のようになっています。

 警告	回避しないと、死亡又は重傷を招く可能性がある状況を示します。
 注意	回避しないと、軽傷を負うか又は物的損害が発生する危険な状況を示します。

ご使用时

警告

- **火気厳禁**
 - 引火性のある溶媒を使用する場合、火気の使用は厳禁です。火災又は爆発の原因になります。

注意

- **換気に注意を**
 - 引火性又は毒性のある溶媒を使用する場合、十分換気をしないと火災、爆発又は中毒の原因になります。
- **液漏れに注意を**
 - 溶媒などの液漏れは、感電、中毒、薬傷、火災、腐食などの原因になります。液漏れの場合は、適切な保護具を着用し、液を取り除いてください。

注意

● 保護具の着用を

- 有機溶媒、酸などの溶離液を取扱う場合は、保護メガネ、手袋などの保護具をご使用ください。薬傷を負うおそれがあります。

● 容器の取扱いに注意を

- 保存温度及び取扱いが不適切であると、容器が破裂又は破損する可能性があります。取扱いには十分ご注意ください。

● 適切な使用方法を

- このバルクゲルは分離、精製などに用いるもので、それ以外の目的には使用しないでください。

● 圧力に注意を

- このバルクゲルのカラムへの充填時又は充填後のカラム使用時に、送液ポンプなどによって圧力を過度に加えると十分な性能が得られないことやカラムの破裂、ゲルの飛散などの可能性がありますので、規定以上の圧力にならないようご注意ください。
- 適切な保護具を着用し、十分注意して作業を行ってください。

● 分離精製物の取扱いに注意を

- 得られた分離精製物又は精製溶液を製品及び中間体として使用する場合は、十分にその安全性の確認を行ってご使用ください。

● 処分には適切な処置を

- 廃棄する場合は、産業廃棄物として適切な処置を行ってください。
- 不要になった容器は、溶媒が残らないように処置、洗浄し、材質別に適切に処分してください。

取扱い上のご注意（出荷溶媒に関する注意）

応急処置	吸入した場合	<ul style="list-style-type: none"> • 空気の新鮮な場所に移動してうがいを行い、医師の手当てを受ける。
	皮膚に付着した場合	<ul style="list-style-type: none"> • 水などで洗い流し医師の手当てを受ける。
	眼に入った場合	<ul style="list-style-type: none"> • 流水で15分以上洗眼する。その際は眼を開き水が全面にゆきわたるように行う。 • 医師の手当てを受ける。
	飲み込んだ場合	<ul style="list-style-type: none"> • 口腔を水洗し、医師の手当てを受ける。
取扱い及び保管上の注意	火気などの注意	<ul style="list-style-type: none"> • 火気の使用を禁じ火花の発生を防止するための防爆工具の使用及び接地などを行う。
	換気	<ul style="list-style-type: none"> • 許容濃度以下に保つような設備で換気する。
	身入り容器の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> • 容器は破損につながる粗暴な取扱いをしない。
	取扱い時の保護具と身体の洗浄	<ul style="list-style-type: none"> • 取扱いの際は耐油性手袋、保護メガネ及び有機ガス用保護マスク、保護衣、長靴などを着用する。 • 取扱い後は顔、手、口などを水洗する。
	危険有害物などの保管	<ul style="list-style-type: none"> • 火気、加熱などに注意して保管する。 • その他のものと分けし、漏れ、飛散、こぼれなどに注意して保管する。
	保管温度条件	<ul style="list-style-type: none"> • 保管する温度に注意し、凍結しないようにする。
廃棄上の注意	処分方法	<ul style="list-style-type: none"> • 廃棄する場合は認定を受けた産業廃棄物処分業者に委託する。
	一般的な留意事項など	<ul style="list-style-type: none"> • 処分作業は取扱い及び保管上の注意事項に留意して行う。
注記 出荷溶媒；20%エタノール水溶液		

取扱い上のご注意（充填剤に関する注意）

応急処置	吸入した場合	<ul style="list-style-type: none"> • 空気の新鮮な場所へ移動してうがいをを行う。
	皮膚に付着した場合	<ul style="list-style-type: none"> • 水などで洗い流す。
	眼に入った場合	<ul style="list-style-type: none"> • 流水で15分以上洗眼する。その際は瞼を開き水が全面にゆきわたるように行う。 • 医師の手当てを受ける。
	飲み込んだ場合	<ul style="list-style-type: none"> • 口腔を水洗し、医師の手当てを受ける。
取扱い及び保管上の注意	火気などの注意	<ul style="list-style-type: none"> • 火気の使用を禁じ火花の発生を防止するための防爆工具の使用及び接地などを行う。
	換気	<ul style="list-style-type: none"> • 換気設備などで換気する。
	取扱い時の保護具と身体の洗浄	<ul style="list-style-type: none"> • 取扱いの際はゴム製手袋、保護メガネ及び防じんマスクを着用する。 • 身体に付着した場合には、水で洗い流す。
廃棄上の注意	処分方法	<ul style="list-style-type: none"> • 廃棄する場合は認定を受けた産業廃棄物処分業者に委託する。
	一般的な留意事項など	<ul style="list-style-type: none"> • 処分作業は取扱い及び保管上の注意事項に留意して行う。
	処分上の注意	<ul style="list-style-type: none"> • 焼却処分する場合は窒素酸化物ガス及び硫黄酸化物ガスを発生するので排ガス対策を行う。
注記 可燃充填剤（ビニル共重合物）		

目 次

1. はじめに	1
2. 操作法	1
3. 保 存	3
4. 注意点	3

1. はじめに

TOYOPEARL AF-rProtein L-650F は、 κ 軽鎖に高い親和性を持つ組換え Protein L をリガンドとした、抗体又は抗体フラグメントの精製を目的とした粒子径 $30\mu\text{m} \sim 60\mu\text{m}$ の全多孔性ポリマーからなる球状アフィニティー充填剤です。

2. 操作法

2-1 微粒子の除去

- (1) ゲルをビーカーなどに移します。
- (2) ゲル量の4倍量の蒸留水を加えて、かくはんして、60～90分程度静置します。
- (3) デカンテーションにより上澄み液（微粒子を含む）を捨てます。
- (4) (2)～(3)までの操作を、少なくとも3回以上繰り返します。

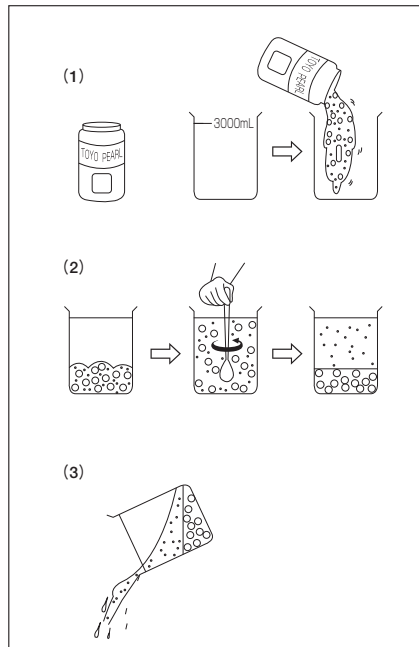


図1 微粒子の除去

2-2 洗浄（初期洗浄）

TOYOPEARL AF-rProtein L-650F は、20 %エタノール水溶液に懸たくして出荷されますので、使用に先立ってグラスフィルターの上で、ゲルの約3倍量の水で洗浄する必要があります。この操作は、スラリーの調製と関連しています。

2-3 スラリーの調整、カラム充填

デカンテーションで微粒子を除去したゲルを、充填溶媒で洗浄します。充填溶媒は、使用する溶出液のうち最も塩濃度の高い溶媒を用いてください。洗浄後、スラリー濃度が30～50%（推奨）になるように充填溶媒を加えてスラリー化し、カラムに充填します。

最適な充填は、加圧（0.05～0.3 MPa 程度）下で行います。この場合はポンプ（ペリスタルティックポンプなど）及びリザーバーが必要です。

使用流速の約2倍の流速で充填します。簡便法である自然落差充填法は、従来からよく使用されていますが、水圧を大きくする方が性能のよいカラムが得られます。

2-4 平衡化

ゲルをカラムに詰めた後、そのまま緩衝液で平衡化してください。カラムを平衡化するには、通常、カラム容積の3～5倍量の緩衝液を流します。

2-5 溶出

吸着させた目的物を溶出分離させるため、溶出液のpHを変化させます。一般的には、平衡化に用いた緩衝液で洗い（開始バッファー）、次にpHを変化させます。

2-6 洗浄、再生

使用済みのゲルは、再生してくり返し使用することができます。再生は、ゲルの汚れの程度によって異なるのでおおよその目安を示します。

A) ゲルがあまり汚れていない場合

・pH2.2の緩衝液 → 中性緩衝液で平衡化

この洗浄は、**2-6-1 バッチ法**の項又は**2-6-2 カラム法**の項の方法で行うことができます。

B) ゲルが汚れている場合

・0.03～0.1 mol/L NaOH → 中性緩衝液で平衡化

この洗浄は**2-6-2 カラム法**の項の方法でのみ行うことができます。

注記：NaOH 溶液の洗浄は短い時間でおすませください。洗浄時間は0.03 mol/L NaOH の場合は10分以内、0.1 mol/L NaOH の場合は2分以内を目安に行ってください。NaOH 溶液に長い時間さらされるとゲルの性能が劣化するおそれがあります。

2-6-1 バッチ法

必要液量は、ゲル体積の3～5倍で、ビーカーの中で軽くかくはん及び放置をくり返し、おおよそ60～90分静置した後、デカンテーションによって上澄み液を捨てます。この操作を2～3回くり返します。

2-6-2 カラム法

TOYOPEARL AF-rProtein L-650Fは、強度に優れ、容積変化が小さいので、カラムの中で容易に再生できます。

始めに洗浄液をカラム内に通液し洗浄します。次に中性緩衝液に切り替えた後、カラム容量の3～5倍を通液します。

・カラム法の利点

1. 充填する手間が最初の1回で済む。
2. 再現性がよい。
3. ポンプを使えば早い。
4. 洗浄効率が高い（バッチ法と比べると少ない液量でよく洗浄できる）。

3. 保 存

ゲルは20%エタノール水溶液中で、+2～+8℃で冷蔵保存してください。

4. 注意点

4-1 微粒子の除去

微粒子の除去が完全でない場合には、白色の微粒子が最初フィルター部を通過し漏出してきますので、2-1項の方法で使用前に浮遊微粒子を除去してください。

4-2 流速の低下あるいは圧力が上昇した場合

フィルター部の目詰まりによることが大半を占めます。もし非常に流速が低下したら、ゲルを取り出し微粒子を除き、フィルター部を約10分間超音波洗浄してから再度充填してください。

4-3 吸引法による長いカラムでの充填禁止

粒子径が細かいため、上端部と下端部に充填密度の差が生じて分離が乱れます。したがって、長さが10cm以上のカラムでは吸引による充填ではなく、加圧による充填を行ってください。

以下の名称は東ソー株式会社の日本、米国、欧州共同体などにおける登録商標です。

TSKgel、TSKgel SuperMultipore、TSKgel STAT、BioAssist、Lipopropak、TOYOPEARL、
ToyoScreen、TOYOPEARL GigaCap、TOYOPEARL MegaCap、TOYOPAK、EcoSEC

以下の名称は東ソー株式会社の日本における登録商標です。

バイオアシスト、Enviropak/エンバイロパック、Enviropak/エンピロパック、リポプロパック、
エナンチオ/Enantio、TSKgel SuperOligo、SuperOligo、NPR、トヨパール、
トヨパールメガキャップ、トヨパールバック/TOYOPEARLPAK、
PStQuick、マイショリディスク

HLCは東ソー株式会社の日本及び中国における登録商標です。



東ソー株式会社 バイオサイエンス事業部

東京本社	営業部	☎(03)5427-5180	〒105-8623	東京都港区芝3-8-2
大阪支店	バイオサイエンスG	☎(06)6209-1948	〒541-0043	大阪市中央区高麗橋4-4-9
名古屋支店	バイオサイエンスG	☎(052)211-5730	〒460-0008	名古屋市中区栄1-2-7
福岡支店		☎(092)781-0481	〒810-0001	福岡市中央区天神1-13-2
山口営業所		☎(0834)63-9888	〒746-0015	山口県周南市清水1-6-1
カスタマーサポートセンター		☎0120-17-1200	〒252-1123	神奈川県綾瀬市早川2743-1

Printed in Japan